

2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

教務部 2019年度重点目標		
項目1	目標	2020年度の入試改革、指導要領の改定に向けて、学校環境の整備をおこなっていく。
	達成方法	教務規程の見直し作業を進める
		多様な評価材料に基づく成績基準について探求し、追認定試験の見直しを進める
		e-portfolioの利用や各種の検定など、入試にあわせた記録の仕方などの探求を進める
項目2	目標	2020年度から始まる高2のグローバルスタディ旅行の運営を通じて、SGHとして行ってきたプログラムなどとの統合をはかる
	達成方法	教務部の業務運営に関する記録を密に行い、改善点を考えていく
		GLCを中心に進めてきたプログラムを学校全体の活動に広げるための統合作業を行い、持続可能なプログラムにしていく
項目3	目標	生徒部や進路部など他分掌との連携を進め、大妻中野らしい制度作りを進めていく。
	達成方法	既存のプログラムの見直しを進め、円滑な運営のためにプログラムの統合をはかるなど、効率化をはかる
		新プログラムの作成や運営など、学年だけにとどまらないような工夫を行っていく

2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

進路部 2019年度重点目標(学力向上に向けて)		
項目1	目標	生徒が自ら学ぶ授業の実践
	達成方法	妻中サクセスの身体化をすべての教育活動で図る。
		タブレットや電子黒板などのICT機器の有効利用を図り、学び合いの機会を設ける。反転学習を実践し研究する。
		授業の6要素「ねらい、メモ、反応、発表、質問、振り返り」の学習姿勢を身体化し、思考を伴う能動的な活動ができる授業の実践する。
項目2	目標	生徒の進路意識改革
	達成方法	建学の精神や校訓を身体化し、学ぶ意味をすべての教育活動で考えさせる。
		生徒及び保護者を対象とした進路ガイダンスを計画的に実施する。
		各種検定試験の積極受検を奨励する。
年5回の勉強マラソンを継続する。		
項目3	目標	大学受験への支援態勢
	達成方法	平常日の放課後及び長期休業中に実施する受験対策講座を充実させる。
		各種研究会や研修に参加して、最新情報を収集する。
2020入試改革に向けて、e-portfolioへの対応や英語外部検定の大学入試利用に対応する。		
項目4	目標	中学の基礎基本事項の定着
	達成方法	MMT(Monday Morning Test)を継続して実施し、成績不良者への指導を徹底する。 基礎基本事項を精選し、その定着に教科担当者だけでなく学年団全体で取り組む。
項目5	目標	教師の受験指導力アップ
	達成方法	大学入試問題の解き合いと、検討会を実施する。 大学入試に対応した講習を充実させる。

2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

生徒部 2019年度重点目標(生きる力育成に向けて)		
項目1	目標	グローバル社会で活躍する人材を育成する。
	達成方法	文化祭実施にあたって、グローバル社会への対応やSDGsを意識した企画を展開する。
項目2	目標	校訓「恥を知れ」を生徒指導の基本的方針とし、挨拶の励行、マナー・モラルの意識向上、並びに校則等のルール遵守を基本的な生活習慣として定着することを目指す。
	達成方法	登下校時指導、日々のHR指導、集会等を通じて挨拶の励行、登下校マナー等を日常的にしっかり身につくまで指導を徹底する。
		全教員が丁寧な対面教育を心がけるよう徹底する。
項目3	目標	道徳教育は、カリキュラムに則り、全校でベクトルを統一する。「豊かな心」を養い、自他共に誇りを持てる学校づくりを目指す。
	達成方法	道徳・LHR・集会等の指導を通じて「思いやり」「寛容」の心を育て、心豊かな生徒を育成する。
		他者から、信頼され共感を得ることができる人材の育成を目指す。
項目4	目標	教育活動において、困難を乗り越え粘り強く目標に向かって努力する姿勢を培う
	達成方法	学園祭や合唱コンクール、生徒会活動を通じて「協調性」「忍耐力」「達成感」を学び、自己肯定感を高めることによって、主体的に生き生きと努力できる生徒を育てる。

2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

入試広報部 2019年度重点目標		
項目1	目標	本校の実践・取り組みを広く、正確に外部に伝える。
	達成方法	教員全員による塾訪問を継続。訪問のタイミングで伝えるべき内容を明確にする。
		外部学校説明会での広報活動の継続。パンフレットにない付加的な情報を発信していく。
		本校主催の学校説明会の内容を改善する。
項目2	目標	Webサイト、ネットを利用した情報発信を効果的に行う。
	達成方法	ホームページの適時更新。
		早めのWeb登録を誘導する。
		学校施設を有効活用することを見据え、予約制の説明会を試みる。
項目3	目標	GLC入学希望者のさらなる増加を目指す。
	達成方法	海外での広報活動を継続。海外在留家庭に応じた情報を発信する。
項目4	目標	学校全体として、より組織的に入試広報活動に当たれるよう企画運営をする。
	達成方法	研修会への参加、また他校との情報交換や情報収集をし、校内で共有する。
		事前の打ち合わせ、準備を早めに始め、役割分担を超えた連携を進める。

2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

企画室 2019年度重点目標		
項目1	目標	学校を生徒にとっての「成長の場」にするための授業・考査・評価デザインを企画実施する。
	達成方法	「妻中サクセス」を意識した授業づくりができるように、教員相互の授業研究や見学を促進するような機会をつくる。
		全教科の定期考査を進路部と連携して確認し、生徒の力を伸ばすための考査になっているかどうか、評価方法について総合的な提案をする。
		EMセンターのリニューアルにあたり、ICT委員会と連携しながらその使い方や新しい授業スタイルを提案する。
		探究型の授業と生徒たちの授業への向き合い方について、授業アンケート実施等と連携しながらPDCAを行う。
項目2	目標	『2020年大学入試改革に向けての自己の学びの蓄積、e-ポートフォリオへの対応』のための準備と教員の啓蒙
	達成方法	「何を記録すべきか」を整理し、全員に共通する記録項目と、それぞれの活動でつけられる「能力」を一覧にまとめる。
		「大妻中野で育てたい力」の設定とESDに向けたカリキュラムマネジメントを早期に策定し、新学習指導要領の実施に備える。
		授業や考査でどのような能力を育て、どのように評価するのか、ルーブリック評価の方法等も含めて教務部等と連携して検討する。
項目3	目標	4技能の習得に向けた英語活動の充実と全校化
	達成方法	週に2回のOne Minute Englishを継続実施し、帰国生以外も放送に登場できるようにする。
		帰国生を中心としたEVAやTrivia Club、Good Vibesなどの生徒主体の活動を促進し、生徒同士のインタラクティブな学びをサポートする。
		外部4技能試験への対応に向けて、外国語科と他教科のクロスカリキュラムを検討する。

2019年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

国際部 2019年度重点目標		
項目1	目標	"Otsuma Nakano as the School for Global Gateway" - "Beyond School" を合言葉に、SGH_Community 校の5年目として、また、ユネスコ・スクールの初年度として、これまで以上に、Society 5.0 に対応した教育をさらに深く研究するとともに、国内外の様々な組織と連携し、その成果を本校全体への還元を進めていく。それにより、文部科学省へ申請した目標の達成に資する。
	達成方法	ユネスコ・スクール (Unesco School) への正式加盟を踏まえ、地球市民(Global Citizenship)としての自覚、SDGsへの明確な意識を持った取り組みを、カリキュラム内外で継続的に実施し、その成果の校内への浸透を進めていく。
		"アウトソーシングとアウトリーチ - Outsourcing and Outreaching" をキーワードに、Model UN, HLAB, Henda, WISH, TEDx, SGH Forum などの国内外の組織と交流し、各種のプログラムの情報提供や参加、企画、実施を進め、その進行状況を共有化できるように校務運営会議で、報告する。また、外国語科、地歴公民社会科を中心に教科との連携を進め、プログラムへ参加する生徒と一緒にファシリテイトしていく。 "教育コンソーシアム・Creation of an educational Consortium"としての外部機関、大妻女子大学国際センター、英語教育研究所、国内外の専門家、有識者、JSAF、IGS、WCEなどと積極的に連携し、グローバル教育関連情報やプログラムへのサポート体制をさらに充実させていく。
項目2	目標	本校SGH構想調書にある「留学をしたり、将来、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合では、SGHプログラムの対象となった生徒については、全員がこうしたことを考える生徒になることを目標とする」に向けて、留学する生徒、本校に受け入れる留学生の生徒と海外大学(国際併願)を目指す生徒数を前年度以上にする。
	達成方法	トビタテ！生を筆頭に、留学経験者、海外大学進学者による「エヴァンジェリオン活動」を積極的に行い、留学と海外大学進学を持つ意味を卒業生や経験した生徒からこれからの生徒に伝え、周知できるように、学校のウェブサイトでの発表、説明会の開催などを重ねていく。
		「トビタテ！留学JAPAN」、「HLAB」、「筑波グローバル・リーダーズ・プログラム」、「アメリカ大使館」、「ブリティッシュ・カウンシル」、「オーストラリア各州政府」、「フランス大使館」、「コリブリ」などと連携し、それぞれの留学や進学プログラムへのチャレンジをさらに積極的に生徒に薦め、そのための説明会、報告会などを積極的に実施していく。 英語チューターを積極的に活用し、英語チューターによる英語4技能アドバイスなども積極的に行っていく。また、英語ネイティブ教員との協働による様々な国際プログラム企画、参加指導、国内大学(English Track)、海外大進学ガイダンスや相談、留学相談などを行う。
項目3	目標	事務室とも連携し、英語での各種書類の作成などの教務実務、海外大学進学、留学、海外からの編入生受け入れとその後の指導に必要な教育実務を英語で行うシステムと人材の育成を継続してより一層進めていく
	達成方法	英語で教育実務を実践できる人材開発は、最も重要な点である。外部組織との十分な連携なども含め、文書の英語化、英語による校内の日常的なコミュニケーションの頻度を増やし、また、英文書類の作成をマニュアル化していく。
		本校教職員自体が複言語母語、多文化化していることを踏まえ、日本人教員と外国人教員の協働して生徒指導に当たれる体制を整備する。 Collaborating Japanese teachers and English native teachers for assisting with students writing various kinds of application essays for study abroad programs, transferring to international schools or local schools outside of Japan and applying to universities in foreign countries. 外国人教員と日本人教員が、さまざまな校務でコミュニケーションをとり、本校と海外の学校を繋ぎ、海外の学校や帰国生に本校のメッセージを発信していく。 Collaborating and communicating with Japanese teachers and English native teachers for assisting with the editing of official school correspondence with various universities, middle schools, and our educational partners.